

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 4 報
千葉県農林水産部
令和3年6月29日

4月植付け「コシヒカリ」は穂肥の時期を迎えます。

5月植付け「コシヒカリ」の幼穂形成期は早まっています。

〔生育概況〕

6月上中旬は、気温・日照ともに高く推移したことから、5月植えの「コシヒカリ」の生育が進んでいます。4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月20日頃（平年より2日早い）から幼穂形成期を迎え、追肥時期となっています。また、5月1日に移植した「コシヒカリ」は6月24日頃（平年より4日早い）から幼穂形成期となります。4月20日に移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」は、出穂期15～10日前の冷害危険期に入っています。

低温に弱い飼料用米の「アキヒカリ」「夢あおば」を4月に早期移植した場合は、冷害危険期が6月下旬から7月上旬になります。低温が予測されたら深水で管理しましょう。

表1 品種別の生育状況（6月25日現在）

品種	植付時期	平年比※1			
		生育進度※2	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	並	並	並	並
ふさこがね	4月20日	並	並	並	並
コシヒカリ	4月20日	並	並	並	やや淡
	5月1日	やや早	並	並	並
粒すけ	4月20日	並	並	並	やや濃

※1 平年比は過去10か年（2011～2020年）の平均値との比較。

ただし、「粒すけ」は過去6年（2015～2020年）のデータとの比較。

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断

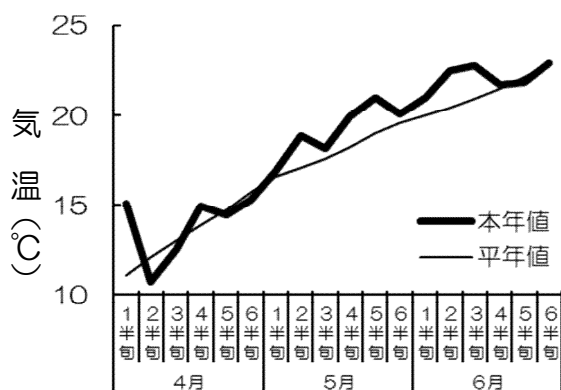


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

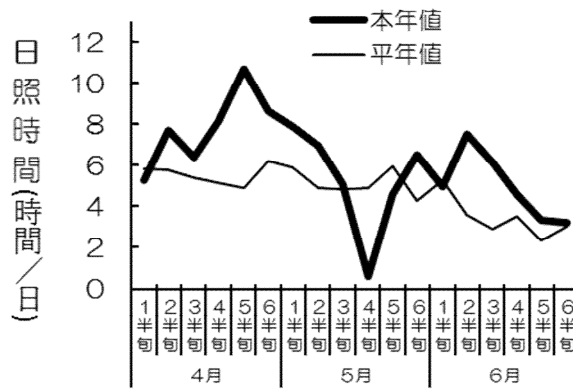


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■穂肥の実施

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
コシヒカリ	4月20日	6月23日	6月21日	6月20日	6月20日	幼穂形成期7日後頃～ 15日後頃の間 【幼穂長1cm～8cm】
	5月1日	6月27日	6月25日	6月24日	6月24日	
	5月10日	7月2日	6月30日	6月29日	6月29日	
粒すけ	4月20日	6月23日	6月20日	6月19日	6月19日	幼穂形成期7日後頃 【幼穂長1cm】
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日	6月24日～				幼穂形成期5日前頃～ 幼穂形成期5日後頃 (ただし、最高分げつ期 に葉色が低下した場合は、 すぐに追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日	7月1日～				

(※) 幼穂形成期は、水稻作柄安定対策調査結果の実測値及び生育ステージ予測システム(千葉県試験研究成果普及情報)を基に予測。ただし、飼料用米は、水稻作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安(表2)を参考に、穂肥を施用しましょう。各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg(「コシヒカリ」「粒すけ」は房総南部の粘質土で窒素成分を2kg)です。

近年、秋の長雨・台風により倒伏がみられます。「コシヒカリ」は、幼穂形成期の目標生育量(表3)を参考に、施肥量を調整しましょう。

なお、「飼料用米多収品種(専用品種)」は、窒素と加里を成分量で10a当たり各3kg(ただし、たい肥を施用している場合は、窒素のみ3kg)が目安となります。

表3 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) × 茎数 (㎡当り)	カラスケール値 (※)			草丈 (cm)	予測される 生育・収量	対策		
	3.5	4	4.5			穂肥 加減	穂肥 時期	倒伏 軽減剤
16,000 以下	560 以下	490 以下	440 以下	70cm 未満	籾数が不足し、 やや減収	増肥、または時期を 2～3日早める。		×
16,000 ～ 20,000	560 ～ 700	490 ～ 600	440 ～ 550	70～ 80cm	目標どおりの生育が期待 籾数確保のため 穂肥は必要 稈長が伸び、 倒伏が心配	標準量	標準	×
20,000 ～ 27,000	—	600 以上	550 以上	75cm 未満	籾数過剰となり、乳白米の発生が心配	減肥(窒素施用量 1～2kg/10a)して 時期を遅らせる か、または無施用。		×
				75～ 82cm	稈長が伸び、 倒伏が心配	×	×	必要

(※) カラスケール値とおおよその茎数(㎡当り)の対応は、SPAD値とカラスケール値との換算式に基づき、目安として示した。

■ 中干し後の水管理（用水を大切に）

○出穂前後は湛水管理、低温時には深水管理

中干し後は「間断かんがい」を行い、出穂期 3 週間前から出穂期 2 週間後までは「湛水管理」を行います。（自然由来のカドミウムの吸収を抑えるための技術です。）

また、冷害危険期となる幼穂形成期 10～15 日後（出穂期 15～10 日前）に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため「深水管理」にします。（表4を参照）

飼料用米の「アキヒカリ」「夢あおば」は耐冷性が弱いので、特に注意しましょう。

表4 冷害危険期予測（冷害危険期は記載日から6日間）

品種	植付時期	県北 （香取市）	九十九里 （茂原市）	内湾 （千葉市）	県南 （館山市）
ふさおとめ	4月20日	6月27日	6月24日	6月23日	6月23日
ふさこがね	4月20日	6月28日	6月26日	6月25日	6月25日
コシヒカリ	4月20日	7月3日	7月1日	6月30日	6月30日
	5月1日	7月7日	7月5日	7月4日	7月4日
粒すけ	4月20日	7月3日	6月30日	6月29日	6月29日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月4日～			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	7月11日～			

■ 斑点米カメムシ類の防除

○畦畔の草刈りは出穂期 2 週間前まで

出穂期前後の草刈りは、斑点米カメムシ類をほ場の中に追い込んでしまい、斑点米の発生につながります。畦畔雑草の刈り取りは出穂期2週間前までに済ませましょう。

表5 品種別の出穂期予測

品種	植付時期	出穂期予測（※）			
		県北 （香取市）	九十九里 （茂原市）	内湾 （千葉市）	県南 （館山市）
ふさおとめ	4月20日	7月12日	7月9日	7月8日	7月8日
ふさこがね	4月20日	7月13日	7月11日	7月10日	7月10日
コシヒカリ	4月20日	7月18日	7月16日	7月15日	7月15日
	5月1日	7月22日	7月20日	7月19日	7月19日
	5月10日	7月27日	7月25日	7月24日	7月24日
粒すけ	4月20日	7月18日	7月15日	7月14日	7月14日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月19日～			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	7月26日～			

（※）出穂期は、生育ステージ予測システム（千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。
ただし、飼料用米は、水稻作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

○斑点米カメムシ類の防除適期は「穂揃期」と「出穂期 15 日後頃」

斑点米カメムシ類は、水田周辺に生息していた成虫が水稻の出穂後に水田に侵入します。防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期」と、侵入した大型の斑点米カメムシ類の成虫が産卵した卵から幼虫が孵化する「出穂期 15 日後頃」です。

大型の斑点米カメムシ類は、飛来成虫よりも孵化幼虫による被害が大きく、乳熟期から糊熟期の吸汁によって被害が発生します。

また、カスミカメムシ類は、小さく発見しにくい害虫です。開穎籾（割れ籾）が多い年では、被害が多くなる場合があります。

出穂が、周辺よりも早いものや遅いものは、集中的な被害を受けることがあるので、必ず発生状況を確認します。

○飼料用米ほ場における防除

飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。

農薬は、稲用に登録されている薬剤を使用することができますが、籾米のまま出荷する場合は出穂以降の農薬散布は行えません。ただし、安全性が確認された農薬については、出穂始め以降の散布が認められていますので、（独）農林水産消費技術センターの最新情報を確認してください。



■ いもち病、稲こうじ病、紋枯病の防除

いもち病は、止葉などの上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除をしましょう。さらに発生が続く場合は、天候等を考慮した上で穂揃期にも追加防除を行いましょう。

稲こうじ病は、穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では出穂期 10 日前までに、薬剤防除をしましょう。

紋枯病は、茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。近年では飼料用米栽培で発生が多いので発生状況を確認しましょう。

表6 いもち病、稲こうじ病、紋枯病の主な防除薬剤

病害名 薬剤名	いもち病	稲こうじ病	紋枯病
ダブルカットフロアブル	○予防・治療		
ノンプラス 粉剤 DL/フロアブル	○予防・治療	○	
ブラシン 粉剤 DL/フロアブル	○予防・治療	○	
カスミン 液剤	○治療		
バリダシン 粉剤 DL/液剤 5			○
モンカット 粒剤/フロアブル			○

（※）農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、7月14日に発行予定です。